

受検者の受け入れに限界があり、後半で受付を制限したこともあって、189名の受検者に留まった。検査項目をHIV・B型肝炎・C型肝炎・梅毒とし、初日に採血・翌日に結果告知を行なうNLGR形式にて実施した。二日間とも相談室を設けた。検査会場がイベント会場から離れたことで、リピーター率は高くなり、生涯初めて受検した人数が減少した。イベントと併設していたことが受検行動への大きな要因のなっていることが分かった。NLGR開催時の検査会への誘導が課題である。これまで実施した受検者数とHIV陽性者数を表13に示す。

3) -④ MSM向け無料HIV検査会「M検」

2008年よりALNが共催する検査会は、財団法人エイズ予防財団から名古屋市委託され、さらに名古屋市から名古屋医療センターが委託を受け、その実施を市川研究班の内海班が担当する委託事業になった。この委託条件が年2回の実施であるため、6月のNLGR検査会以外に12月に検査会を実施している。この検査会を“Men's検査会”を略した「M検」の名称で呼んでいる。2008年度では、通訳スタッ

フが確保できたことで、外国人対応を実施し、ポスターも3ヶ国語にて作成した。しかし、2009年度からは外国人対応を断念している。

2010年度のM検は12月11日に名古屋市千種保健所で実施した。実施形態は即日検査に変更された。10:00～13:00採血受付、15:00～18:00結果告知となっている。受検者が少なかった要因として、検査内容の決定が遅くなり、広報も遅れたことがある。また、受付時間が昼過ぎまでであったことから、時間的に受検を断念したMSMも少なくなかったであろうことが、rise来場者に広報した際の反応やM検に関する電話相談から推察される。図5にM検2010のポスターを、最近3年のM検の受検者数および陽性者数を表14に示す。

表13 NLGR検査会の受検者数とHIV陽性者数

	受検者数	HIV陽性者数	
2001年	148名	4名	2.7%
2002年	304名	7名	2.3%
2003年	346名	4名	1.2%
2004年	439名	12名	2.7%
2005年	425名	9名	2.1%
2006年	471名	21名 (*1名)	4.5% (4.0%)
2007年	538名	12名	2.2%
2008年	439名	8名	1.8%
2009年(9月)	107名	5名	4.7%
2010年	189名	6名	3.2%

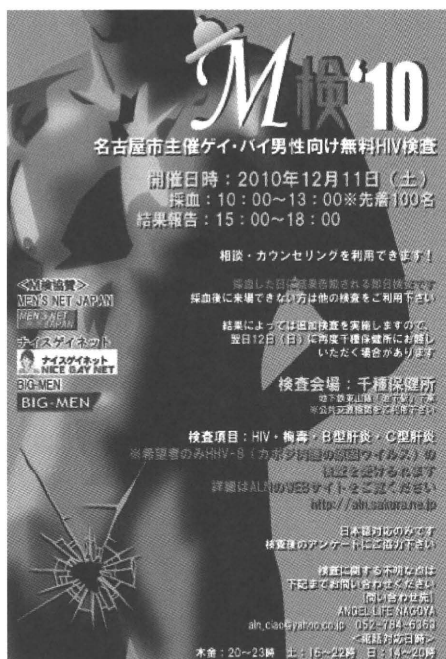


図 5. 2010 年度のM検の案内ポスター

表 14 M 検の受検者数と HIV 陽性者数

	受検者数	陽性者数	陽性率
2008 年	92 名	5 名	5.4%
2009 年	73 名	1 名	1.4%
2010 年	33 名	0 名	0.0%

M 検 2010 では、これまで広報を行っていなかった出会い系掲示板でもバナー広告を掲載した。予算のために、無料サイト 2 サイト、有料サイト 2 サイトに留まっている。また、SNS のイベントカレンダーへの案内などは継続して行った。

3) - ⑤ ALN の活動評価

本報告書に別の研究者から報告がある。

D. 考察

新規 HIV 陽性者の中のエイズ患者の占める割合は、都道府県によって大きく異なっている。今回は宮城、東京、愛知、大阪の各地域における割合を比較検討した。東京、大阪においては、新規 HIV 陽性者の中のエイズ患者の占める割合は低く (25%未満)、一方宮城、

愛知の各地区ではその割合が高い (32%以上)。HIV/エイズの予防啓発事業が効果を発揮すれば、HIV 検査の受検率は高くなり、その結果早期診断がなされるので、新規 HIV 陽性者の中のエイズ患者の占める割合は低くなるのが想定される。つまり、エイズ患者の割合が低いほど、逆に言えば HIV 感染者の割合が高いほど、HIV 検査の有用性、有効性が高いと判断できる。従って、東京と大阪では HIV 検査の有効性が高く、宮城と愛知では相対的に低いと結論付けられる。

ではその背景にある要因は何か、が次に問題となる。今回の調査では、宮城県に関しては受検率の低さが要因と考えられるが、愛知の場合は保健所の受検者も多く、また MSM の HIV 受検率も東京、大阪に劣らない。今回の調査では、愛知と東京、大阪の間には、保健所以外の施設での人口 10 万人あたりの HIV 検査時間数、特にその施設での夜間休日の HIV 検査時間数に大きな差があることが判明した。保健所以外の施設における人口 10 万人あたりの HIV 検査時間数 (4 週間分) は、愛知が 1 時間であるのに対し、東京は 5.7 時間、大阪は 5.4 時間であり、それぞれ愛知に比べ 5 倍強の検査時間を有していた。その中でも特に夜間休日における人口 10 万人あたりの検査時間数は、愛知が 0.36 時間であるのに対し、東京は 3.31 時間、大阪は 2.87 時間と愛知の検査時間の約 8~9 倍の時間数であった。日高氏による MSM を対象にしたインターネット調査でも、愛知の MSM が保健所以外の施設で HIV 検査を受ける割合が 29.5%であるのに対し、東京と大阪ではそれぞれ 78.9%、75.5%と非常に高かった。保健所の検査時間数はむしろ愛知の方が多く (対人口比)、また日高氏の調査においても愛知の MSM の方が保健所の HIV 検査を利用する率が東京、大阪に比べ高かった。

以上より、特に愛知と東京、大阪の間には、

保健所以外の施設における検査時間数、特にそこでの夜間休日の時間数に大きな差があり、この差が愛知対東京もしくは大阪の新規 HIV 陽性者の中のエイズ患者の割合の差の要因である可能性が示唆された。

保健所以外での HIV 検査は、主に民間のクリニックと NPO/NGO による常設検査によって担われている。つまり、自主的、自発的に有志によって行われている HIV 検査と言ってもよい。こうした自発的 HIV 検査こそがより早期の HIV 陽性者の診断に繋がっており、HIV 検査の有用性と有効性を担保していると考えられる。

有志によって実施される HIV 検査は、当然のことながら受検者のニーズに対応した検査時間が設定される。東京、大阪の保健所以外の施設による夜間休日検査の時間数が愛知に比べ格段に多いのも当然の帰結であろう。特に大阪では夜間休日の検査はすべて保健所以外の施設で行われおり、且つ今回調査した 4 地域内では最も優れた HIV 検査の有効性を示してやはりいる。保健所以外の施設における夜間休日検査を提供することが、HIV 感染の早期診断に繋がっているものと考えられる。

保健所以外での施設における夜間休日検査は、ほとんどが有志によって行われている。夜間休日検査の時間数が多くなるほど、それを支える有志の数も多いはずである。保健所以外の施設における夜間休日の検査時間の多少は、その地域における HIV 予防活動や医療の総合力を反映するものと考えられる。従って、愛知と東京、大阪の早期 HIV 診断率の差は、HIV 予防と医療の総合力の差と考えられる。

以上の考察は、しかし、もっと直接的なデータによって検証されなければならない。つまり、各地域における医療機関で、新規 HIV 陽性者がどこでどのような時間に診断されたのか、を詳しく調査することによってさらに確

かなものになると思われる。次期年度にはこの調査を実施したい。

できるだけ早期に HIV 感染を診断することは、診断された個人にとっても、またその人が属する社会にとっても重要なことである。早期診断の差の要因を探ることは、ひいては早期診断の促進へとつながるので、本研究の推進は大いに意義あることと考えられる。

HIV 教育は当然のことながら極めて重要である。しかし、教育を受ける側が HIV/エイズに対して正確な知識と適切な構えを有していないと、その効果は限られたものになることが予想される。我々は 2006 年より名古屋市内の私立大学で、将来教師になるだろう学生を対象に、Group Investigation (GI) モデルを応用したエイズ学習を実践してきた。本学習はイスラエルの Sharan 夫妻が開発した共同学習理論に基づくもので、小グループに分かれた学生がそれぞれのサブテーマについて 12~15 時間をかけて共同且つ主体的参加で勉強し、まとめ、最後にそれらを発表し、異なるサブテーマの領域の内容も勉強するものである。今回は、学習に取り掛かる前と後における HIV/エイズに関する知識や関心、態度の変容の有無を検討した。その結果、知識や関心、態度といった認知面では積極的な方向への変化が認められたが、「感染不安」や「コンドーム使用」などの感情面や行動面に関しては有意な変化は認められなかった。

今回の研究から、教える側の教育の重要性が再認識されるとともに、行動変容の難しさも改めて明らかになった。ただし、共同学習という人との関係性を介在させた学習は、その個人にとって将来何らかの行動変容に効果的な影響を及ぼす可能性を秘めており、今後の研究の発展を期待したい。

ALN の活動はほぼ例年と変わらないものであった。コンドームアウトリーチ、コミュニティペーパーの配布、rise の運営、イベント

の開催、無料HIV検査会の実施、のいずれの分野でも、少ないスタッフで変わることなく活動を継続させるのは、なかなか困難なことである。今年度もほぼ例年と同じ実績を上げることができた。ただ、予防啓発活動の範囲、規模、内容、いずれの点を取ってもいまだ十分とは言えない。範囲と規模の拡大、内容の充実を求めていかねばならない。ALNの活動の評価は、バー調査によって行われたが、その結果は本報告書に別の形で報告される。

ALNの活動をさらに発展させる動きが出つつある。2001年から行われてきたNLGRの主権を、従来のALN単体から、ALNのみならず他のHIV関連団体やゲイバーやクラブの関係者、他にNLGRに賛同する個人からなる拡大実行委員会を結成して行うことになった。多くの人々の知恵やアイデアが寄せられ、また他方面との協働が実現することになり、NLGRの新たな歴史への第一歩が踏み出されたと考えられる。次年度のNLGRに期待したい。

NLGRをめぐる上述の動きを、NLGRにとどめるのではなく、ALNの予防啓発活動全般に及ぼしていきたい。そうすれば、先に挙げたHIV予防啓発活動の範囲と規模の拡大と内容の充実を実現していけるものと考えられる。現在はその胎動の時期と考えている。

HIV検査の重要性は論をまたない。愛知では先に報告したとおり、保健所でのHIV検査はそれなりに拡充が図られてきたが、保健所以外の施設でのHIV検査が乏しい。それを補う意味でも、従来のNLGRに付随するHIV検査とM検は今後も継続していきたい。

NLGRと同時開催のHIV検査会は2010年度では189名の参加者があり、検査を実施した千種保健所の規模を超える事態となったので、途中で終了宣言を出さざるを得ない状況となった。ニーズは高いものと思われる。今後とも継続する。

M検は広報期間も短く、且つ迅速検査をと

りいれたために検査受付時間を3時間と短縮したために受検者の数が例年の1/3に減少した。今回は新たな試みとして上記方式で行ったが、次回のあり方については十分議論する必要があると思われる。HIV検査を必要とする人々に受験していただくにはどのようなあり方がいいのか、さらに十分検討する必要があると思われる。

E. 結語

- 1) 愛知と東京・大阪の新規HIV陽性者中のエイズ患者の割合の差の背景因子の一つとして、保健所以外でのHIV検査時間の差が重要と思われた。
- 2) 将来エイズ教育を担うだろう教師を目指す学生に対するエイズ学習の重要性が認識されたが、彼ら自身の行動変容は困難なことが示唆された。
- 3) ALNの予防啓発活動は、コンドームアウトリーチ、コミュニティペーパーの発行、riseの運営、NLGRの開催と無料HIV検査の実施と多岐にわたった。今年度も例年と同様の成果が得られた。さらなる活動の拡充を目指し、活動主体をALNからALNを含む各方面の関係者から成る連合体に移行させる試みが進みつつある。

F. 発表論文等

(研究論文)

- 1) Shiro Ibe, Yoshiyuki Yokomaku, Teichirou Shiino, Rie Tanaka, Junko Hattori Seiichiro Fujisaki, Yasumasa Iwatani, Naoto Mamiya, Makoto Utsumi, Shingo Kato, Motohiro Hamaguchi, and Wataru Sugiura: HIV-2 CRF01_AB: First Circulating Recombinant Form of HIV-2, J Acquir Immune Defic Synd 54(3), 241-247, 2010.

(国内学会発表)

- 1) 新ヶ江章友、金子典代、石田敏彦、藤浦裕二、内海眞、横幕能行、市川誠一：名古屋市で開催されているゲイ・バイセクシュアル男性向け HIV 抗体検査会における検査受検者の経年的推移, 第 24 回日本エイズ学会 学術集会・総会, 2010. 11. 24, 東京.

(国際学会発表)

- 1) Shingae A, Utsumi M, Ishida T, Fujiura U, Ichikawa S: Community based rapid HIV testing for MSM (Men who have Sex with Men) in Nagoya, Japan: Comparison of MSM attending a MSM targeted health center HIV testing with those attending a gay festival, 10th International AIDS conference July 2010, Vienna, Austria.

大阪地域における男性同性間の HIV 感染予防介入研究

研究分担者：鬼塚哲郎（京都産業大学）

研究協力者：山田創平（京都精華大学）、辻宏幸、後藤大輔（財団法人エイズ予防財団）、
内田優、町登志雄、有田匡、中村文昭、鍵田いづみ、赤田知華子、原澤俊也、
祝雄一、大畑泰次郎（MASH 大阪）、木村博和（横浜市健康福祉局）、
コーナー・ジェーン、塩野徳史（名古屋市立大学看護学部/財団法人エイズ予防財団）、
日高庸晴（宝塚大学）、金子典代、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

平成 22 年度、MASH 大阪は以下のような研究事業を実施した。

1. 以下の介入プログラムを執行した：

1) コミュニティレベルのプログラムとして、

月刊のコミュニティペーパー<Sal+>の発行を継続して行った。昨年度に引き続き本年度も、エイズ予防/セクシュアルヘルス関連情報を前面に押し出す方式を採用した。平成 22 年 4 月～平成 23 年 1 月の期間に、月平均で、190 店舗および 40 団体に 18.5 名のボランティアが 6500 部を配布した。コミュニティペーパー<Sal+>のエイズ予防啓発メディアとしての特徴を明らかにするため、これまでに発行された<Sal+>について、文学的・文化研究的視点から読み返し、特集記事のテーマおよび文体の変遷、特集記事とコラム記事の関連性、の 2 点にフォーカスしつつ分析を行なった。その結果、1 号から 95 号まで一貫してみられる特徴として、1) 多声的な言説空間の構築がめざされている、2) セクシュアル・マイノリティであることを問題視しない、3) セックスを肯定的に捉える、4) HIV 陽性であることを特別視しない、5) 文体は「笑い」（ユーモアとアイロニー）を基本とする、がみられた。変遷をたどる読みから見えてきた特徴としては、全 95 号は第 1 期（1 号～12 号）、第 2 期（13 号～76 号）、第 3 期（77 号～95 号）の三期に分類された。また、その変遷の要因として、MASH 大阪と店舗との関係性の変化（開店したとき既に MASH 大阪の事業が展開されているケースが増加）、編集長の性格、コミュニティ側の HIV 関連情報に対するリアクションの変化（忌避から容認へ）の 3 点が示唆された。

2) グループ・個人レベルのプログラムとして、

①ドロップインセンター<dista>関連事業を執行した。平成 22 年 4 月～平成 23 年 1 月の期間に、月平均 855.6 名が来場した。そのうち初来場者は月平均 97.7 名で期間全体としては 977 名であった。来場者数・初来場者数のいずれも前年比で増加している。相談件数は期間全体としては 178 件であった。相談体制の強化と今後の体制構築を目的とした「コミュニティセンターにおける対人支援」についての会議を設け、相談事例と対応内容についての共有を行い、利用者に対し適切な支援をするために必要な基礎知識やリソース先の整理、技術の習得を促した。

②STI 勉強会<Café Chat>を執行した。毎月趣向を変え工夫を凝らして開催し、参加者は 2

名～20名であった。

③若年層ネットワーク構築支援プログラム<Step>を4月、5月、7月、8月、11月に開催、総計180名が参加、うち133名がドロップインセンター<dista>を利用した。

④ハッテン場におけるセーファーセックス促進環境整備プログラム<ハッテン場プロジェクト～β～>（商業系ハッテン場等での Condom 普及 100%作戦）を執行した。今年度は、「大阪のハッテン場において顧客がセーファーセックスを実行できる環境を提供するためのガイドライン」の作成に向け、ハッテン場オーナー・店長へのヒアリング」を継続的に行なった。

2. 上記介入プログラムの効果評価ツールとして、平成20年度に引き続きクラブ顧客層を対象とした質問紙調査（クラブ調査）を実施した。（別稿参照）。

A. 研究目的

本研究の目的は、平成22年度に執行された研究事業を記述・分析し、効果評価と照合することで、個別施策層向け予防介入事業のモデル構築を試みるところにある。

B. 研究対象と方法

本研究の対象は平成22年度（2010年度）にMASH大阪によって執行された予防介入プログラムであり、後述する効果評価の結果と比較検討したうえで考察を加える。比較検討、考察にあたっては、疫学とその周辺領域のみならず、組織論、ソーシャルマーケティング理論、社会学といった広い領域からの言及を行うこととする。

C. 研究結果

各プログラムの執行状況について順次報告する。

①コミュニティペーパー<SaL+>の配布

（これまでの流れ）

2000～2002年度に開催された臨時検査イベント SWITCH を通して得られた情報をコミュニティに還元するためのツールとして構想された<SaL+>は、2003年度に入りコミュニティペーパー的性格を強めながらコミュニティに浸透してきた。

2004年度実施したフォローアップ調査の結果、関連知識、受検行動、予防行動のいずれにおいても、受取り群には非受取り群と比較して有意な効果がもたらされた事が示唆された。

平成21年度からは、コミュニティ関連情報よりも、セクシュアルヘルス関連情報を前面に打ち出す方向転換を行った。具体的には下記の2点である。

- 1)特集記事において、エンタテイメント性を保ちつつエイズ予防/セクシュアルヘルス関連のテーマを取り上げる。
- 2)医師やMSWまたは検査技師等、専門職者のインタビュー記事を掲載する。

（目的）

- ・MASH大阪が把握している情報をコミュニティに還元する。
- ・配布活動を通じて、コミュニティとのネットワークを構築する。
- ・地域に密着した情報を発信し共有化をはかることで、コミュニティへの帰属意識を涵養する。

（方法）

今年度も昨年同様の編集方針で進め、発行部数もほぼ同程度で行なった。

コミュニティペーパー<SaL+>のエイズ予防啓発メディアとしての特徴を明らかにするため、文学的・文化研究的視点から読み

返し、特集記事のテーマおよび文体の変遷、特集記事とコラム記事の関連性、の2点にフォーカスしつつ分析を行なった。

(成果)

今年度の配布実績は(1月末までの時点で)毎月平均で、190店舗と40団体に18.5名のボランティアスタッフが約6458部を配布した。また、6月～9月までの4ヶ月間は、SaL+の発行部数を1000部増刷した。

年間を通して、発行部数のほとんどは、ゲイタウンや地域団体への配布であるが、夏～秋にかけては大型のイベント会場等でも配布した。

コミュニティペーパー<SaL+>のエイズ予防啓発メディアとしての特徴を明らかにするため、これまでに発行された<SaL+>について、文学的・文化研究的視点から読み返し、特集記事のテーマおよび文体の変遷、特集記事とコラム記事の関連性、の2点にフォーカスしつつ分析を行なった結果、1号から95号まで一貫してみられる特徴として、1)多声的な言説空間の構築がめざされている、2)セクシュアル・マイノリティであることを問題視しない、3)セックスを肯定的に捉える、4)HIV陽性であることを特別視しない、5)文体は「笑い」(ユーモアとアイロニー)を基本とする、がみられた。

変遷をたどる読みから見えてきた特徴としては、全95号は第1期(1号～12号)、第2期(13号～76号)、第3期(77号～95号)の三期に分類された。第1期では記者・編集者の声を中心であるのに対し、第2期では記者・コミュニティメンバー・専門職者の声が交じり合う傾向が強くなり、第3期ではこれに加え科学的・制度的言説(シグナル)と個人の観測・感情・破綻(ノイズ)が混在していることがあげられた。また、こうした変遷の要因として、MASH大阪と店舗との関係性の変化(開店したとき既にMASH大阪の事業が展開されているケースが増加)、編集

長の性格、コミュニティ側のHIV関連情報に対するリアクションの変化(忌避から容認へ)の3点が示唆された。

②ドロップインセンター<dista>

(目的)

大阪地域のゲイ男性が利用する商業施設が多い地域に啓発普及の活動拠点を整備・運営し、HIV/STI感染予防に向けた啓発プログラムを戦略的に展開することを事業の目的とする。ドロップインセンターの機能は以下のとおり。

○予防啓発事業の拠点機能として

- ・啓発活動およびアウトリーチのベース基地(啓発の実施・普及機能)
- ・予防啓発に関わるスキル研修会・講習会会場(人材育成機能)
- ・セーフターセックス勉強会やワークショップ会場(啓発普及機能)

○情報センター機能として

- ・コミュニティの人がふらっと自由に立ち寄れて、セクシュアルヘルスに必要な情報やコミュニティの情報を持ち帰ることができる(情報の還元・普及機能)
- ・相談場所・窓口(相談機能)

○コミュニティセンター機能として

- ・コミュニティ交流プログラム会場(地域交流機能)
- ・コミュニティからのリアクションをフィードバックさせる(情報収集機能)
- ・リピーターを獲得し、その人達と相互に確実な情報伝達をくりかえすことによって、コミュニティ内のキーパーソンの育成をはかる。

(対象クライアント)

対象クライアントとして以下を想定した。

1. ゲイ関連施設従業員
2. ゲイ関連施設利用者
3. インターネット利用者
4. エイズ対策関連団体/個人

(成果目標)

成果目標として以下を想定した。

- ・当事者性を重視した予防啓発活動を、コミュニティの中心エリアで実施し、コミュニティメンバーや関係機関との連携・協働により、セクシュアルヘルスの増進、セーフターセックスへの環境づくりを目指す
- ・dista を核としたコミュニティ・ネットワークを構築し、そのネットワークを通じて HIV/STI の予防や共生のメッセージと正しい情報が伝わってゆくことを目指す。
- ・情報と空間・時間を共有し、HIV を身近に感じる人が増えていくことで、HIV/AIDS の予防と共生の意識がコミュニティ全体に広がり、行動変容を促すことを目指す。

(運営体制)

2010 年度は基本オープン時間を水曜日～月曜日の 17 時～23 時とし、火曜日を休館日とした。土曜日には不定期でイベントを開催しその際はオープン時間を 17 時～5 時とした。17 時～20 時を A シフト、2 時～23 時を B シフト、及びイベント開催時の土曜日の 23 時～5 時を C シフトとして、運営スタッフとコンシェルジュ（ボランティア・スタッフ）がシフトを組んで dista 運営業務に当たった。コンシェルジュは現在 4 名が稼働している。

今年度は、より相談機能の強化をめざし、毎月第 3 日曜日に運営スタッフとボランティアスタッフを対象とした dista 運営会議を実施した。

(成果)

今年度の施設オープン時間は月平均 191 時間。来場者数は月平均 855.6 名程度あり、前年度より増加した。そのうち初来場者についても、月平均 97.7 名程度あり、これについても前年度より増加した。初来場者数は全体の 1 割強であった。dista 利用状況及び利用者数年度別推移は【付表 2】【付表 3】、利用者年代別状況は【付表 4】のと

おり。

今年度で開催したカフェイベントと教室の実施内容および展覧会内容は【付表 5】【付表 6】のとおり。

相談件数は月平均 17.8 件程度あった。その推移と相談内容は【付表 7】及び【付表 8】のとおり。

相談体制の強化と今後の体制構築を目的とした「コミュニティセンターにおける対人支援」についての会議を設け、相談事例と対応内容についての共有を行い、利用者に対し適切な支援をするために必要な基礎知識やリソース先の整理、技術の習得を促した。現在、会議と並行して dista に従事する相談員育成を目的とした研修を作成中である。

また、ふらっと来た来場者のうち特に初来場者については、コンシェルジュが積極的にコミュニケーションをとる方針を徹底させたことにより、dista の説明や予防、検査情報を確実に提供できた。

今後の課題として、相談員の育成と、幅広い年齢層に届く広報や企画を催し、新規利用者の獲得と、相談と予防情報の提供を確実に行える予防・支援拠点としての充実を目指す。

③STI 勉強会<CAFE CHAT>

(目的)

CAFE CHAT とはエロネタや恋愛ネタを中心に身近で興味をひくようなテーマを設定し、一義的な展開や啓発色の強いメッセージを発信するのではなく、自らの言葉で意見、情報を交換し、多様な性や生活のあり方を認め合いその雰囲気共有するものである。自分達にとっての SEX を考え、語ることにより、SEX に対する興味や意識を喚起し、SEX と密接な関係にある性感染症に対する認識を促すことを目的とする。

また、SEX の話題の中にセーフターセックスに関する情報を盛り込んだり、プログラムの最後に STI やセーフターセックスに関連

する情報を提供するミニ勉強会を設けることにより、STI やセーファーセックスに対する知識向上と共に予防と共生の意識を浸透させることを目指すプログラムである。

(方法)

実施手法として以下の点を挙げることができる。

- ・ファシリテーターを設け対話形式での展開を行う。参加者が楽しんで取り組めるようテーマに沿った資材やゲーム等を使用。
- ・CAFÉ CHAT を問題なく円滑に進行させるためグラドルールを設ける。
- ・参加者が意見を発し、取り組みやすいような場所や雰囲気を設定する。(カフェ形式 etc)
- ・プログラム最後 15 分程度の STI 勉強会や、SEX の話題の中にセーファーセックスを意識するような仕掛けを設ける。特に必要な情報として「感染症/経路/症状/対応/検査」「セーファーセックス/行為」「コンドーム/セックスの道具/使い方/入手方法」を盛り込む。

今年度は、毎月第 2 土曜日 (4 月～6 月は夜間 20 時～22 時、7 月以降は夜間 18 時～20 時) に実施。対話や相談等の場となることに留意した。また 10 月は、PLuS+FINAL のパビリオンに参加し、毎月使用している dista 外の場所で対話をする機会として運営した。

広報として SaL+や dista.b での告知、mixi 等を用いた。

(成果)

エロネタや恋愛ネタなどの身近なテーマ設定により、参加者の積極的な発言を促すことができた。

それにより実生活に役立つ情報を共有し、実践に役立ててみるという声が聞かれるなど、情報を持ち帰ってもらうことの有意性が感じられた。

また、自身の経験をポジティブに語る機会は自身だけでなく他の参加者の経験に対し

てもポジティブに捉えることができ、安心して発言ができる雰囲気を作り出すことができた。その結果、性感染予防やセクシュアルアイデンティティの形成において対話することの重要性を実感し、それを共有する機会を作り出すことができた。

プログラム最後に 15 分程度のミニ勉強会や対話の中でセーファーセックスを意識するための仕掛けを設けることで、必要な情報を的確に伝えやすく、参加者への意識づけが可能な機会となった。

回を重ねるごとにスタッフのファシリテーション技術の取得に関して向上が見られ、対話を使った啓発手法を効果的に利用できるようになった。また、企画の立案や情報の伝達の方法等においても参加者の目線に合わせた展開を実践できるようになった。

7 月から実施時間帯を変更したことにより、プログラム実施後に参加者からの相談を受ける時間ができた。

今後も新規クライアントの獲得を目指す場合の広報の手法や、運営体制の見直しを行い、今までのノウハウを活かしつつ更なる充実を目指す。プログラム実施状況は【付表 9】のとおり。

④若年層ネットワーク構築支援プログラム<step>

(目的)

コミュニティにあまりアクセスしていない 10 代～20 代の若者をターゲットとしたプログラムである。プログラムの目的として以下の点が考慮されている。

- ・コミュニティや、MASH 大阪に未接触の若者に対する入り口となる事。
- ・参加者が dista へアクセスするようになる事。
- ・他のプログラムへのボランティア・リクルートになる事。

(方法)

事業は以下の点に留意しつつ展開した。

- ・啓発色をださず、季節感やお得感、遊びに行く、楽しむ、友達作りなどの企画を実施する。
- ・コミュニティスペース dista へアクセスするきっかけを提供する。
- ・mixi (大手の SNS=ソーシャルネットワークワーキングサイト) を中心とした広報宣伝を行う。
- ・プログラムに関わるスタッフの友人の中であまり STI の情報に触れていないクライアントの参加を促進させる。
- ・企画運営実行は主にコミュニティの若者が中心に行う。

(成果)

今年度は12月末までの時点で6回の企画を実施した。実施内容は【付表 10】のとおり。

参加者は合計 180 名、そのうち初参加者が 62 名、過去に参加経験のある人は 118 名だった。

step 新規参加者の約 2 割が dista を知り、必要なときに dista を利用するようになった。この割合は昨年までと比べて大幅に減少している。これは、既に dista に接触している人が step に新規参加したことによるものである。また今年度は、step 参加経験あり人数が大きく増加した。本プログラムの目的のうち、コミュニティや MASH 大阪に未接触の若者に対する入り口となる事と、参加者が dista へアクセスできるようになる事については、今年度はあまり達成できていない。

step 参加者のうち、その後アウトリーチへ参加した者が 9 名、SaL+へ表紙モデルやコラム執筆などで協力した者が 5 名、PLuS+へボランティアとして参加した者が 10 名いた。本プログラムの目的のひとつである、MASH 大阪が実施する他のプログラムへの

ボランティア・リクルートの機能については、ある程度達成された。step から MASH 大阪が提供する他のプログラムへの接触状況は【付表 11】のとおり。

コミュニティにあまりアクセスしていない層をうまくリクルートできなくなっているため、今後、企画内容や参加者募集のありかたについて再検討を要する。

⑤ハッテン場におけるセーファーセックス促進環境整備プログラム<ハッテン場プロジェクト~β~>

(目的)

このプロジェクトは、関西圏の商業系ハッテン場において、利用者に対して十分な量のコンドーム及びローションが、セックスが行われる場所からなるべく手の届く範囲において提供されるための環境を構築するために実施される。

商業系ハッテン場は、不特定多数の MSM がセックスすることを目的として集まる場所であることから、MSM のセクシュアル・ネットワークにおいて、中心性が強い空間であるといえる。実際にセックスを行なう空間であり、かつ会話などのコミュニケーションなしにセックスが成立する空間であるため、セーファーセックスに関するネゴシエーションを事前に行いにくい。そのため、この空間におけるセーファーセックスの実践は「利用者個人々の意識・態度」ならびに「施設の雰囲気・環境」に大きく左右される。そこで本プログラムにおいては「施設の雰囲気・環境についての介入」を試みる。

京阪神圏の商業系ハッテン場において、利用者がセックスを行なうのに十分な量のコンドームとローションが、セックスが行われる場所からなるべく手の届く範囲において提供される環境を、施設と十分に協議しながら構築する。

そして、利用者に対して安定的に継続して Condom とローションが提供された場合の Condom 使用率など、行動変容の推移を測定する。

(方法)

このプログラムでは、関西圏の商業系ハッテン場の現地観察調査、オーナー・店長へのインタビュー調査(質問紙調査含む)、施設利用者へのインタビュー調査、利用者への質問紙調査、Condom とローションの提供プログラムを組み合わせ実施し、関西圏の商業系ハッテン場において、Condom 及びローションが利用者に対して十分な量で無償提供されるための環境を構築し、それに伴って利用者の感染予防行動がどのように変容するかを調査する。

(事業の成果)

今年度は、「大阪のハッテン場において顧客がセーフセックスを実行できる環境を提供するためのガイドライン」の作成に向け、ハッテン場オーナー・店長へのヒアリングを継続的に行なった。

このガイドラインに加盟することに対してはどの施設も協力的であった。特に日頃から Condom を設置するなど積極的に Safer Sex を推進している施設については他の施設との差別化ができ、安全にセックスを楽しめる施設であるというサインになるとの理由からより協力したいという意思が感じられた。その一方で、ローションの設置・無料提供について難色を示す施設が数件あった。布団が汚れる、いたずらで撒き散らす人がいる等、管理の困難さを危惧するような理由が主だった。来年度に向けて、ヒアリングで得られた意見をもとにガイドライン案を修正し、さらにヒアリングを継続して実施する予定である。

D. 考察

年度初頭に掲げた研究計画の項目にそって、

研究事業の実施状況を総括する。

(プログラム関連)

- ドロップインセンター<dista>は、計画通りに執行され、利用者及び新規利用者が増加した。
- コミュニティペーパー<SaL+>は、計画通りに執行された。
- 若年層のネットワーク育成<Step>は、計画通りに執行されたが、ターゲットとする層からのリクルートに課題を残す結果となった。
- STI 勉強会<Café Chat>は、プログラムの質、参加するクライアント数ともに前年までの水準が維持された。
- ハッテン場プロジェクトは、ガイドライン作成に向けたハッテン場オーナーとのヒアリングを継続的に行なった。

(アウトリーチ関連)

- 新世界地区での新規開拓が若干進展した。
- #### (アドボカシー関連)
- 行政との協働事業の展開としては、新たに兵庫県との関係構築が進展した。また、大阪市が予防指針の改定に着手し、これに協力している。
 - CBO との連携事業の展開としては、これまでの継続にとどまり、特に新しい進展はみられなかった。

(研究関連)

- 平成 20 年度に引き続きクラブ利用者調査が実施された。
- コミュニティペーパー<SaL+>が MSM に対して訴求力を持つ要因を明らかにすべく、文化研究の手法を用いた分析を行った。HIV 感染対策研究に人文学を応用する新たな試みであった。

(学会等での情報発信)

- 1st Developed Asia Regional Consultation on HIV in MSM and TG において、口頭発表をおこなった。
- 日本エイズ学会において、シンポジウム

を企画・運営したほか、展示ブースを設置した。シンポジウムにおいては領域を横断しつつ様々な専門家から国際的な情報が提示され、議論が展開された。

E. 結語

1. プログラムはおおむね計画通りに継続された。コミュニティペーパー<SaL+>は、すでに長期間継続的に実施されているものであり、その効果も実証されている。本年度の新たな分析から、本資材がMSM に対する高い訴求力を維持できている要因の一端が明らかにされ、新たなエビデンスを蓄積することができた。事業化によるプログラムの継続が強く望まれる。
2. ハッテン場への予防介入プログラムは、顧客がセーフセックスを実行できる環境を、施設側が提供するためのガイドライン作成に向け交渉を継続しており、次年度以降の運用を目指している。

F. 発表論文等

(研究論文)

- 1) 金子典代、市川誠一、辻宏幸、鬼塚哲郎：健康教育ツールを開発しよう、計画③対象者にひびくメッセージをつくろう、保健師ジャーナル、2008、64 巻1号、82-89.
- 2) 鬼塚哲郎、山田創平：感染に脆弱な集団にどう予防介入するか～マイノリティ集団における一次予防、二次予防、三次予防のあり方を検証する、治療学、vol. 42-no. 5, 2008.
(国内学会発表)
- 1) 山田創平、鬼塚哲郎、辻宏幸、後藤大輔、鍵田いずみ、内田優、町登志雄、塩野徳史、市川誠一：商業施設を利用する MSM (Men who have Sex with Men) 向け HIV 感染予防プログラムの開発に関する形成的研究、第 23 回日本エイズ学会学術集会・総会、2009 年 11

月 26 日.

- 2) 鬼塚哲郎、山田創平：「HIV 感染対策研究への地域研究の応用」、第 23 回日本エイズ学会学術集会・総会、2009 年 11 月 27 日.
- 3) 山田創平、鬼塚哲郎：HIV 感染対策研究における人文学の応用可能性その 2、第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、2010 年 11 月 24 日.
(国際学会発表)
- 1) Tetsuro Onitsuka, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa : The HIV/AIDS epidemic among MSM in Japan: Background & gay NGO responses, Satellite Symposium on HIV infection in developed east and south-east Asia, ICAAP Bali, 11 Aug 2009.
- 2) Tetsuro Onitsuka, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Hiroyuki Tsuji, Daisuke Goto, Yukio Cho, Satoshi Shiono, Suguru Uchida, Mie Takenaka, Seiichi Ichikawa : HIV infection rates, risk & preventive behaviors of MSM in Asia: How does Japan compare?, poster presentation, ICAAP Bali, 10 Aug 2009.
- 3) Tetsuro Onitsuka, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Sohei Yamada, Satoshi Shiono, Hiroyuki Tsuji, Daisuke Goto, Toshio Machi, Sachiko Omori, Hirokazu Kimura, Seiichi Ichikawa : HIV risk & sexual behaviors of Middle Aged MSM: Findings from the 2007 Osaka bar survey, poster presentation, ICAAP Bali, 10 Aug 2009.
- 4) Tetsuro Onitsuka, Hiroyuki Tsuji, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa : The HIV/AIDS epidemic among MSM in Japan: Background & gay NGO responses, 1st Developed Asia Regional Consultation on HIV in MSM and TG, Singapore, 2nd-3rd, Dec. 2010.

【付表1：SaL+配布実績- 2010年度（1月末時点）】

期間	配布された施設 (昨年度の数值)	送付団体・個人 (昨年度の数值)	配布された部数 (昨年度の数值)	配布スタッフ延べ数 (昨年度の数值)
2010年4月	193店舗(185店舗)	40団体(38団体)	6658部(6503部)	18名(18名)
5月	185店舗(185店舗)	40団体(38団体)	6708部(6418部)	16名(20名)
6月	191店舗(186店舗)	39団体(37団体)	6762部(6613部)	16名(19名)
7月	187店舗(186店舗)	39団体(38団体)	7077部(6668部)	21名(25名)
8月	187店舗(190店舗)	39団体(37団体)	6712部(6393部)	23名(16名)
9月	192店舗(187店舗)	39団体(118団体)	6687部(7140部)	32名(26名)
10月	193店舗(186店舗)	41団体(37団体)	6697部(6533部)	16名(28名)
11月	193店舗(186店舗)	42団体(39団体)	6845部(6563部)	17名(20名)
12月	192店舗(190店舗)	42団体(37団体)	6720部(6595部)	12名(7名)
2011年1月	191店舗(187店舗)	42団体(39団体)	6720部(6588部)	14名(16名)
2月	店舗(186店舗)	団体(40団体)	部(6558部)	名(23名)
3月	店舗(189店舗)	団体(40団体)	部(6533部)	名(23名)
4月～1月	月平均190店舗	月平均40団体	月平均6458部 合計64586部	月平均18.5名 合計185名

【付表2：dista利用者状況- 2010年度（1月末時点）】

期間	MASH大阪 業務利用者 (うち初来場者)	イベント来場者 (うち初来場者)	ふらっと来た人 (うち初来場者)	貸し出し (うち初来場者)	合計 (うち初来場者)	稼働時間
4月	108名(13名)	233名(24名)	586名(49名)	0名(0名)	927名(86名)	187時間
5月	95名(1名)	232名(49名)	648名(43名)	22名(11名)	997名(104名)	215時間
6月	121名(8名)	158名(16名)	469名(29名)	6名(0名)	754名(53名)	183時間
7月	112名(5名)	142名(21名)	585名(51名)	12名(4名)	851名(81名)	192時間
8月	103名(1名)	188名(46名)	561名(59名)	25名(0名)	877名(106名)	186時間
9月	172名(9名)	135名(28名)	500名(33名)	32名(1名)	839名(71名)	196時間
10月	186名(12名)	355名(68名)	652名(126名)	13名(0名)	1206名(206名)	211時間
11月	101名(9名)	301名(96名)	388名(20名)	27名(0名)	817名(125名)	190時間
12月	55名(2名)	297名(50名)	352名(34名)	3名(3名)	707名(89名)	189時間
1月	56名(0名)	121名(5名)	371名(38名)	33名(13名)	581名(56名)	161時間
2月	名(名)	名(名)	名(名)	名(名)	名(名)	時間
3月	名(名)	名(名)	名(名)	名(名)	名(名)	時間
年度合計	1109(60名)	2162名(403名)	5112名(479名)	173名(32名)	8556名(977名)	1910時間
月平均	110.9名 (6.0名)	216.2名 (40.3名)	511.2名 (47.9名)	17.3名 (3.2名)	855.6名 (97.7名)	191時間

【付表3：dista利用者数年度別推移- 2003年4月～2010年1月末】

年度	合計	月平均
2003年度(平成15年度)	3436人	286.3人
2004年度(平成16年度)	5910人	492.5人
2005年度(平成17年度)	6187人	515.5人
2006年度(平成18年度)	8402人	700.2人
2007年度(平成19年度)	9377人	781.4人
2008年度(平成20年度)	9749人	812.4人
2009年度(平成21年度)	9815人	817.9人
2010年度(平成22年度) 1月末現在	8556人	855.6人

【付表4：dista利用者年代別状況- 2010年度（1月末時点）】

期間	～10代	20代	30代	40代	50代～	合計
4月	51名	514名	262名	72名	28名	927名
5月	26名	546名	306名	87名	32名	997名
6月	14名	421名	216名	85名	18名	754名
7月	15名	503名	238名	72名	23名	851名
8月	16名	515名	243名	77名	26名	877名
9月	10名	453名	252名	87名	37名	839名
10月	22名	575名	428名	135名	46名	1206名
11月	8名	398名	290名	85名	36名	817名
12月	5名	371名	239名	69名	23名	707名
1月	6名	301名	181名	73名	20名	581名
2月	名	名	名	名	名	名
3月	名	名	名	名	名	名
合計	173名	4597名	2655名	842名	289名	8556名
月平均	17.3名	459.7名	265.5名	84.2名	28.9名	855.6名

【付表5：主たるdistaカフェイベント及び教室・講座の実施内容一覧- 2010年度（1月末時点）】

イベント名	イベント・教室の内容
Alt Café	陽性者を対象にしたクローズド形式の親睦カフェ。月1回、第2土曜日の昼間に開催
White forest	陽性者を対象にしたクローズド形式の親睦カフェの夜間版。年1回開催
Café CHAT	SEXについて、STIについてのトークを織り交ぜ、参加者に自らのSEXを振り返ってもらい、STIの予防を促進させる。月1回、第2土曜日に開催
Salon de ONI	ワインを楽しみながら、年齢層の高い人も交えてじっくり深い話ができる空間を提供する。月1回、第4土曜日に開催。
レインボーアディクションミーティング	LGBTの人たち向けの様々なアディクションからの解放と回復を目的としたグループミーティング。毎月第4木曜日に開催。
東方美男	中国茶やスイーツを手軽に楽しみながら、来場者同士でじっくり話の出来る空間を提供する。隔月1回、第1土曜日に開催。
CAMP!	映画を素材として、参加者と主催者でセクシャルマイノリティに関する話題を展開していくイベント。3ヶ月に1回開催。
虹茶房	地域社会を構成する様々な人達(ヘテロセクシュアル/LGBT/HIV陽性者)が等しく豊かさを求められるコミュニティ・社会の実現を目指し、ふれ合いの場を提供する。第4金曜日に開催
Café STEP	10代、20代のゲイ向けの友達作りサークル。季節に合った場所に遊びに出かけ、交流を深める。不定期開催。
tRad ～35歳からの合コンイベント～	予防においてアプローチしにくい35歳以上のMSMを対象に、distaの紹介等を図る
bruit blanc	音楽を通してdistaの認知度を上げるとともにネットワークの構築を図る。不定期開催。
honey groove	音楽(R&B/HipHop/jazz)を通してdistaの認知度を上げるとともにネットワークの構築を図る。
Lounge Nami	DJ+ドラッグクイーン+映像によるインスタレーション形式のイベント。ラウンジをコンセプトに、ゆっくり出来る場を提供。単発企画
教室名	
二般ハングル教室	Gayのための韓国語会話教室。教室以外にも温泉旅行に韓国旅行など、メンバーの親睦も図るイベントも行う。隔週水曜、金曜に開催。
Sign-手話教室-	セクシャルマイノリティ対象の手話教室。日本語でろう者と日常的な会話ができるようになる事を目的としている。隔週金曜日に開催。
4Q アロマ教室	性別を問わず、もっと身近にアロマセラピーを楽しんでもらうための教室。毎月第4木曜日開催。
アートワークショップ アトリエP	様々な画材を使って自由にモノ作りを通して参加者にリフレッシュしてもらい、交流してもらおうオープンスタイルのワークショップ。毎月第3木曜開催。
たいがーりい	性的マイノリティやセックスワーカーに関する問題を、毎回違うテーマに沿って話しあう対話イベント。毎月第1木曜日開催。
呼吸法	メンタルヘルスに大きく役立つ呼吸法について、ビギナー向けにレクチャー&実践し、その良さを周知する。不定期開催。
LGBTの労働相談	地域コミュニティスペース distaにて「労働相談してみよう」をテーマに、職場の環境とカミングアウトについて実施。不定期開催

【付表6: dista 展覧会の実施内容一覧- 2010年度(1月末時点)】

タイトル	アーティスト	期間	来場者数
+-=○	equal partner project	4月30日～5月15日	40名
circle TATSUYA-Naoki Exhibition	龍谷尚樹	8月25日～9月13日	81名
オペラグラフィカ VAMPIRE THEATRE Bram Stoker's DRACULA	シモーヌ深雪 オナンスペルマーメイド	9月15日～9月27日	57名
HOW TO SEX	26名の作家による企画展	10月1日～10月18日	203名
東方美人	梅原彩香	11月3日～11月15日	55名

【付表7: dista 相談件数の推移- 2010年度(1月末時点)】(電話相談・別目的での来場後に相談へ移行したものを含む)

年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
2004年度	1件	3件	4件	3件	0件	1件	0件	0件	0件	3件	3件	0件	18件	1.5件
2005年度	2件	2件	0件	4件	1件	5件	1件	1件	1件	1件	0件	1件	19件	1.6件
2006年度	6件	10件	4件	0件	1件	7件	1件	3件	3件	6件	3件	5件	49件	4.0件
2007年度	5件	7件	23件	15件	9件	7件	19件	5件	5件	0件	0件	2件	97件	8.1件
2008年度	19件	10件	19件	18件	20件	19件	21件	32件	18件	23件	20件	27件	246件	20.5件
2009年度	10件	31件	16件	26件	14件	28件	19件	27件	21件	3件	1件	6件	202件	16.8件
2010年度	20件	15件	29件	9件	13件	25件	21件	10件	12件	24件	件	件	1月迄 178件	1月迄 17.8件

【付表8: dista 相談内容の状況- 2010年度(1月末時点)】

相談内容(複数チェック)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
A群	HIV 感染不安		1	1			3	2		2	5			
	STI 感染不安		1			2	4	1		2	3			
	HIV 検査に関する相談/報告		1	1			1		2	2	3			
	STI 検査に関する相談/報告		2	1		1	3	2	1	1	1			
	エイズに関する一般的な質問		1	1										
	HIV+としての生活・制度・支援など	3		2		1	1			2	1			
	HIV+グループ・医療相談機関紹介							1		1	1			
	A群その他							1	1		1			
B群	恋愛・セックス	1	1	1	2		4	3	2		5			
	現在のパートナーとの関係	1	1	5	1	1	2	4	1					
	家族との関係について	2		1		2	1	2						
	ライフステージに関する不安・問題 (進学・仕事・就職・結婚・パートナーシップ・老後の生活等)	2	2	5	1		2	2		1				
	経済的な不安/問題	2		1			2	1						
	アイデンティティ、カミングアウト	3	1	2	1			2			2			
	精神的不安、疾患	2		6	1		1							
	薬物使用、依存からの回復	2	3		2	1								
	その他の健康相談			1	1				1					
B群その他					4			1		1				
C群	企業・行政等との協働、NPO/CBO 組織運営								2					
	研究デザイン・論文等													
C群その他	2	1	1		1						2			
合計		20	15	29	9	13	25	21	10	12	24			178

【付表9 Cafe Chat プラグラム実施状況- 2010年度1月末時点】

開催日	企画タイトル	参加者数 (新規参加者)	内容
2010年 1月	「ゲイ春！セックスカルタ会 2010」	7名(4名)	ゲイのセックスや恋愛、性感染症などについての歌が書かれたカルタを参加者で取り合い、詠まれたカルタに書かれている事柄について解説したり、意見交換を行った。 使用資材◆カルタカード
2月	「エロくて温かスキニップ」	6名(4名)	自分の好みのスキニップや相手を誘う時に使えるスキニップテクなどを中心に意見交換を行った。STI 勉強会◆セックス時に想定できるシチュエーションについてこんな時どうする？という内容でケースワークを行った。 使用資材◆記述用紙
3月	「KISS☆ロマン」	7名(0名)	男の口にフォーカスして、イケル口やキスのテクニック、オーラルセックスなどを伴うSEX プレイを中心に意見交換を行った。STI 勉強会◆感染経路の一つとしての口ということで口腔に感染するSTIについて解説と意見交換を行った。 使用資材◆口の画像
4月	「セクフレ(?)を作ろう」	5名(1名)	セクフレに求める8項目を盛り込んだリーダーチャートを用意し、各自チャートを完成させてそれをもとに意見交換を行った。その後セクフレとのSafer Sexの実行度合いや意識の持ち方等の意見交換を行った。 使用資材◆リーダーチャート
5月	「初めての○○」	7名(6名)	初ゲイタウンや初セックス、初恋などと書かれたサイコロを振り、出た目の内容について発表し、意見交換を行った。自身の体験の振り返りや他者の意見を聞く機会となった。STI 勉強会◆自身が初めてSafer Sexと定義できる行為を実行した時の体験談や、それに纏わるキーワードを基に意見交換を行った。 使用資材◆初体験サイコロ
6月	「ア*ル夜話」	5名(2名)	“アナル”をキーワードとしてそれにちなんだ体験談や疑問点などを共有し、意見交換を行った。STI 勉強会◆アナルを感染経路とするSTIについて解説を行った。 使用資材◆模造紙
7月	「男のセックスABC」	7名(5名)	プレイの内容を記したカードをもとに自身の経験を振り返り、実行したことのある行為をABCのレベルに分類し、意見交換を行った。STI 勉強会◆行為カードを基にSTI感染リスクの可能性について高低座標を用いて分類分けをし、適宜解説を行った。 使用資材◆行為カード、高低座標
8月	「恋人関係のポイント」	2名(1名)	恋人関係を築きたい相手や恋人という時に、自身がどのような点に気を遣うのかを意見交換した。STI 勉強会◆恋人やセクフレ、その他の関係の場合Safer Sexに対しどの程度まで意識的か、また、自身のライン引きがどこまで揺らぐのか等、相手とSafer Sexの関係について意見交換を行った。使用資材◆気を遣うポイントを記入したカード。
9月	「挿入ナシ！の快感SEX」	9名(6名)	アナルへの挿入行為以外での気持ちのいいセックスについて意見交換を行った。人体図を用いて具体的なテクニックなども共有した。STI 勉強会◆意見交換で出た行為と部位の関係からSTI感染リスクを洗い出し、その内容について適宜解説を行った。 使用資材◆行為カード、人体図
10月	「PLuS+ FINAL～Chat + P～」	約20名	PLuS+FINALの会場で実施。「健康」と「他者との関係性」の2つのテーマを回を分けてそれぞれ意見交換を行った。自身の健康への意識や実行していることを振り返る機会とした。またカミングアウトを切り口に他者との関係性に意見交換を行い、他者との距離感や暴露することのリスクなどについて意見交換を行った。 使用資材◆記述用フリップ
11月	「SEXY SEXY デート」	9名(4名)	デートで行った事のある場所を切り口に、場所と相手との関係や、参加者それぞれのデートの定義について意見交換を行った。STI 勉強会◆デートで行く場所やシチュエーションなど、その時の感情や相手次第でSafer Sexの意識に変化が表れるのかどうか等の意見交換を行った。 使用資材◆付箋
12月	「チンコ meets チンコ」	5名(2名)	ペニスにまつわる話題を中心に、自身の性器や他人の性器について、またペニスを伴うプレイ全般にまつわる意見交換を行った。STI 勉強会◆ペニスが感染経路となるSTIを中心に解説を行った。 使用資材◆ペニスにまつわる行為カード、ディルド
1月	「ゲイ春！セックスカルタクイーン杯2011」	7名(1名)	ゲイのセックスや恋愛、性感染症などについての歌が書かれたカルタを参加者で取り合い、詠まれたカルタに書かれている事柄について解説し、意見交換を行った。 使用資材◆カルタカード

福岡地域における男性同性間の HIV 感染予防介入研究

研究分担者：山本政弘（独立行政法人国立病院機構九州医療センター）

研究協力者：牧園祐也、請田貴史、川本大輔、北村紀代子、辻潤一、新納利弘、狭間隆司、橋口卓、濱田史朗（Love Act Fukuoka）、井上緑（独立行政法人国立病院機構九州医療センター）

研究要旨

平成 22 年度は、昨年度に引き続き、MSM コミュニティ（以下コミュニティ）の層別解析により啓発活動を展開した。各層を、よりコミュニティセンターhaco へ誘導することを一つの戦略的啓発手段としたプログラムの開発と実施の他に、キーパーソンとの協働によるイベントの開催や、積極的な行政との協働を行い、福岡における予防啓発のアプローチを試行した。

A. 研究目的

九州は、東京や大阪などの大都市に続き、年々MSM の HIV/STD 感染が増加傾向にあり、感染拡大は留まることを知らない状況である。地方都市とはいえ、男性同性間における予防啓発は急務であり、十分な対策を講じなければならぬ。

本研究は、九州の中でも特にコミュニティ規模の大きな福岡地域における、MSM の HIV/STD 感染予防啓発の推進とその評価、そして、地方都市での MSM に対する予防啓発普及のモデルケースの提示を目的としている。

B. 研究方法

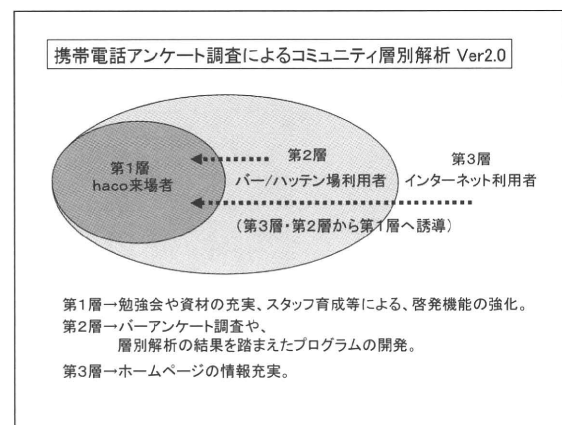
今年度、福岡地域の MSM に向けて以下のアプローチを行った。

1. コミュニティの層別解析を基にした戦略的啓発の試行
2. 有用性を証明された啓発活動の継続
3. 他地域との活動のネットワーク化
4. コミュニティ内での連携強化
5. 行政および外部協力者との連携

C. 研究結果

1. コミュニティの層別解析を基にした戦略的啓発の試行

平成 18 年度に、RDS 法により実施した携帯アンケート調査の結果から導き出されたコミュニティの層別解析 ver2.0 を基に、それぞれの層に対する戦略的な啓発の試行を行った。



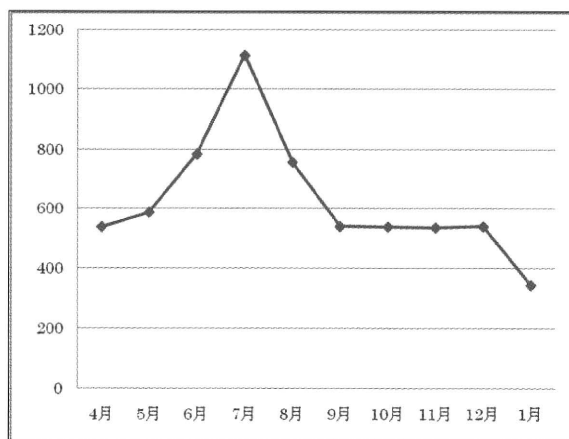
(図 1) コミュニティの層別解析 Ver2.0

- 1) 第 3 層「インターネット利用者」を対象とした啓発活動：ホームページによる HIV 関連情報の提供と haco への誘導

ゲイバーやハッテン場などのコミュニティと接点がなく、主に出会い系サイトなどのイ

インターネット利用のみで性的接触の機会を得ていると思われる第3層「インターネット利用者」に対し、昨年度に引き続き、ホームページを通じたHIV関連情報の提供と、hacoへの誘導を行った。

今年度から、福岡のMSM向け商業施設の検索機能を追加し、利便性を向上させ、閲覧者の増加をねらった。



(図2) 平成23年1月までのLAFホームページアクセス数集計

2) 第2層「バー/ハッテン場利用者」を対象とした啓発活動：haco誘導プログラムの実施

ゲイバーやハッテン場などのコミュニティとの接点はあるものの、まだhacoに来場したことのない第2層に対し、hacoへの来場誘導を主な目的として、展示会やイベント等を開催した。

実施状況については【付表1】のとおりである。

3) 第1層「haco来場者」を対象とした啓発活動：haco来場者啓発プログラムの実施

第1層であるhaco来場者に対し、予防に関する知識があまりない人でも気軽に参加することのできる勉強会「we'st」を、ほぼ毎月のペースで開催した。また前年度に引き続き、コンドームへの抵抗感を軽減するための方法

を検討する勉強会「コンドーム会議室」や、日本HIV陽性者ネットワーク ジャンププラスより講師を招き、HIVのリアリティを伝えるための勉強会などを行った。

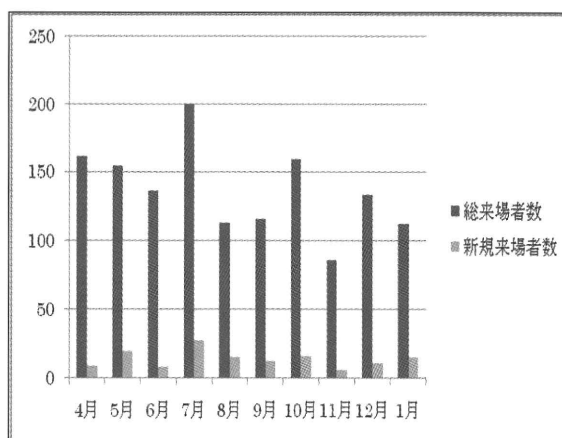
実施状況については【付表2】のとおりである。

4) 「初来場者デー」の開設

haco新規来場者の中から「いつも人が多いので入りにくかった」という声があったので、今年度から木曜日を、一度もコミュニティセンターに来場したことのない人のみを対象とした「初来場者デー」として開設した。

日にち	来場者数
4月29日	1名
5月6日	1名
5月27日	1名
6月24日	1名
7月8日	1名
10月21日	2名
10月28日	1名
11月11日	1名
12月2日	1名
計	10名

(図3) 初来場者デー来場者数



(図4) 平成23年1月までの月別総来場者数と新規来場者数の推移

2. 有用性を証明された啓発の継続：オリジナルコンドームとコミュニティペーパーseasonのアウトリーチ

平成16年度から、MSMのコンドーム常用率向上のための環境作りを目的として、福岡市博多区(平成17年度から北九州市小倉地区へも開始)を中心としたMSM向け商業施設へ、オリジナルコンドームとコミュニティペーパーseason(以下season)のアウトリーチを行っている。今年度もseason発刊に合わせ、計4回のアウトリーチを行った。

今年度、「MSM向け個人マッサージ店以外の商業施設を利用したことがない」というhaco来場者があったため、これまで配布を行っていた店舗に加え、新たに3店舗のマッサージ店へのseason配布を開始した。

3. 他地域との活動のネットワーク化

今年度も、北九州市の協力者による同市でのアウトリーチが行われた。12月には、協力者主催によるMSM向けクラブイベント「コクナイ」が開催され、LAFも協力し、来場者に対しオリジナルコンドームなどの啓発資材を配布した。

4. コミュニティ内での連携強化

1) マルハク 2010

昨年度、LAF主導により組織したイベントオーガナイザー4名との共同体「Love Tribe Fukuoka(以下LTF)」により「福岡のセクシャルマイノリティのコミュニティ活性化と其中でのHIV/STD予防啓発」を目的として開催されたイベント「マルハク」を、今年度も開催した。

オーガナイザーの引退などによりLTFは解散となったが、今年度からは主導をゲイバーマスターに委譲し、内容もMSM向け商業施設のスタンプラリーをメインとしたイベントへと変更した。LAFはseasonをマルハク用に特別編集するなどの協力を行った。

2) RED RIBBON GAMES

6店舗のゲイバーマスターとの協働により、

HIV/STD予防情報の提供を目的とした、テニス、バレー、水泳、ボーリングの総合スポーツ大会「RED RIBBON GAMES」を開催した。

各会場では、名古屋市立大学との協働によるHIV/STDに関するアンケート調査「HAPPINES」を実施した。

3) THE PENTAGON

4店舗のゲイバーマスターとの協働により、クラブイベント「THE PENTAGON」を開催した。イベント内で、今年度から始まった中央区保健福祉センターでの休日のHIV即日検査の告知を行い、検査の促進を行った。

5. 行政および外部協力者との連携

1) 行政との連携

平成21年は新型インフルエンザの影響もあり、保健所での受検者数、陽性判明数も減少し、エイズを発症して初めてHIV感染の診断がつく例が急増した。これは、一方では隠れた感染の拡大を意味する。このため、今年度5月に福岡セクシャルヘルス懇談会を開催し、エイズデーの特例検査についての話し合いを行った。特に重要対象であるMSMに向けたフライヤーの作成とコミュニティへの配布協力を行い、エイズデー特例検査への受検者誘導を行った。

また、福岡市中央区保健福祉センターの協力により、同センターでの即日検査の流れを撮影した検査促進のためのビデオを制作した。12月からの1ヶ月間、hacoにて上映を行い、来場者へ受検を促した。他にも、9月に行われた福岡県エイズ対策推進協議会へオブザーバーとして参加し、行政のMSMに向けたHIV感染対策への提言を行った。

2) 外部協力者との連携

セクシュアリティに関する悩みや問題を持つ人達に対するリソース先として、LGBTサークル「にじだまり」との連携を開始した。集